

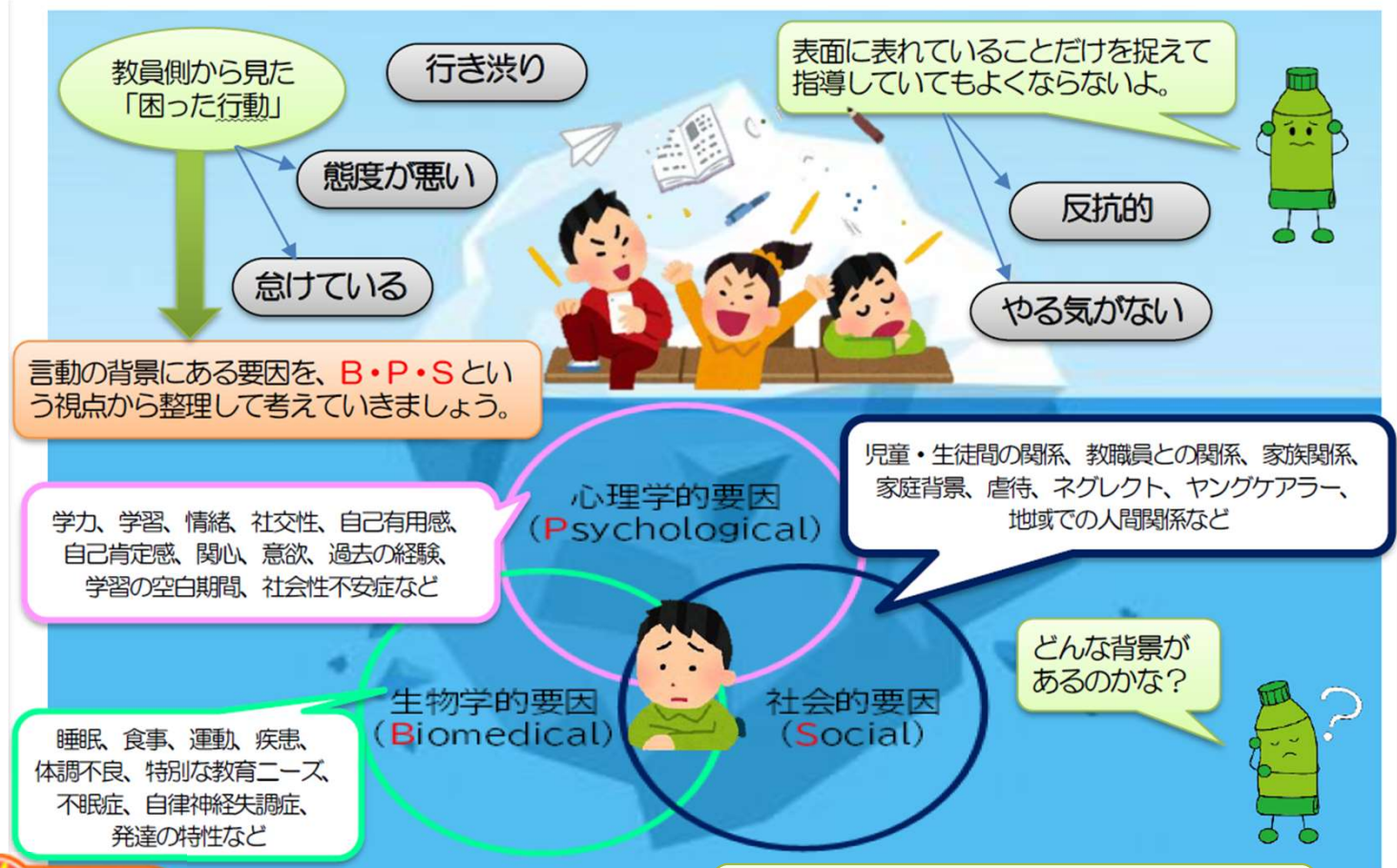


確かな学力の向上をめざして【6月】

■多面的・多角的なアセスメントを通した児童生徒理解 ～児童生徒の言動の背景や要因に目を向ける～

新学期が始まり、約2か月が経ちましたが、多くの児童生徒は学校生活に対する希望や満足感を抱きつつも、一方では何かしらの不安や困り感を抱えながら生活しているのではないのでしょうか。学習や人間関係、家庭生活での困りごとや悩み等、一人ひとりが抱えているものは様々です。そのような悩みや困りごとに対しての適切な解決策が見いだせず、困った行動や問題行動として表出してしまうこともあります。しかし、子どもたちの言動の裏には、「自分のことを認めてほしい。」「分かってほしい。」という願いがあることを、私たちは心に留めておく必要があります。

児童生徒の抱える課題の背景や要因がどこにあるのかに目を向け、様々な角度からのアセスメントを通して児童生徒理解を図り、児童生徒に寄り添った指導や支援につなげていきましょう。その一例として生徒指導提要では、**BPSモデル**が紹介されています。



Point

□多面的・多角的に複数で！

- ・担任のみでアセスメントを行わず、養護教諭などの担任以外の教員やスクールカウンセラーにも関わってもらいながら複数でのアセスメントをし、支援へつなげていきましょう。

□「チーム学校」の専門家の力を効果的に活用しよう！

- ・福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーやLD等専門員が関わることで、行政の福祉担当や療育、医療につなげていくなど、その後の具体的な支援の幅が広がります。

□児童生徒のよいところや強みにも目を向けよう！

- ・アセスメントをもとにしたプラス面の関わりを考えることが、児童生徒のやる気、指導・支援のヒントにつながります。

できる限りアセスメントの精度を高めることが適切な支援につながります！

子どもたちの「わかる」「できる」を支えるために ～ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援～



鳥取県教育委員会は左記のリーフレットを作成し、今年の2月に発行しました。すべての児童生徒が安心して学習に参加できるように、まずは私たち教師ができることから取り組みを始めましょう。

リーフレットの内容から、児童生徒への「接し方の工夫（人的環境の工夫）」について、一緒に考えていきましょう。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/123222.htm>
(各種リーフレット、手引等URL)



生徒指導で大切にしたい視点と共通しているね。

接し方の工夫 (人的環境の工夫)



指導者自身が一番大きな環境です。工夫できることがたくさん！

教室が**心理的に安心・安全な居場所**となるように、**あたたかい学級づくり**が大切です。指導者自身が一番大きな環境であることを意識して関わりましょう。よりよい「言語」「行動」「思考」のモデルとなりましょう。



- 「なぜ」の視点で、児童生徒の言動の背景を考えましょう。
※大切にしたい実態把握の視点について、QRコードを読み取って見ましょう。
- 自分の「よさ」「得意な面」に気づけるような関わりをしましょう。児童生徒のやる気やよりよい指導・支援にもつながります。
- 児童生徒の思いや考えを聴き、それぞれの考え方を認め合う関係づくりを意識しましょう。
Aさんは、そう考えているんだね。
先生は～と考えるよ。
…と考える人もいますよ。
担任は、一番のよき聴き手
- 担任が、一番身近なモデルになりましょう。
(例)声をかけられたら相手に正対して(身体を向けて、していることを止めて)話を聴く。

●「～してはダメ」と否定的な表現ではなく「～しよう」と肯定的な表現を心がけましょう。具体的な言動を伝えることであるべきことがわかりやすくなります。

△書くのをやめて。
○鉛筆を置きましょう。



△走っちゃダメ。何度も言っているでしょ。
○危ないから歩こう。みんなが安全にすごせるように行動しよう。

●不適切・危険な行動については、その行動を指摘し(人格を否定しない)、行動の仕方や解決策を共に考えましょう。

●よいモデルとなる言動や行動を切り替えようとしている姿を褒めて、児童生徒の適切な言動を増やしましょう。

●結果だけではなく、学習の過程や児童生徒の頑張りを認め、児童生徒の行動を意味付けたり、褒めたりしましょう。経験や間違いを意味付けて児童生徒と共有することで、児童生徒が自身の成長に気付いたり、次の活動への意欲を高めたりできるようにしましょう。

支援の必要な児童生徒への教師の接し方は、学級風土の基盤になります。温かい眼差しを向け、児童生徒の声にならない気持ちや願いを言語化し、周りの子ども達につないでいくことを意識しましょう。

教師は児童生徒を肯定的に見ていきましょう。そのためには、教師自身の視点ではなく、児童生徒の立場に立った視点を持つことが大切です。困った行動は、児童生徒自身が「困っている」から起きているかもしれません。

児童生徒の学びの充実のために、児童生徒一人一人への理解を深め、安心して過ごせるあたたかい学級づくりを意識して、児童生徒との信頼関係を築きましょう。

